

令和5年度第四回当別町新庁舎建設検討委員会報告書

- 1 日 時 令和5年11月24日（金） 10:00～11:25
- 2 場 所 役場第二庁舎
- 3 出席者
(出席委員) 高橋委員長、和田副委員長、下段委員、松岡委員、袴田委員、
今堀委員
(町及び事務局)
【事務局】 乗木企画部参与、高田事業推進課長
事業推進課 米内主幹、中鉢主任、有澤主事
- 4 傍聴者 6名
- 5 会議概要
開会后、次第により、次のとおり委員会を取り進めた。
 - ・委員長挨拶
 - ・議 事
事務局より「①整備方針について」を資料に基づき説明した。
 - ・質 疑
委 員 長：皆さんからご意見やご質問があればお受けしますが、せっかくですので、一人ずつお願いします。
委 員：防災の関係で新庁舎を建てないといけないのがスタートだったと思うが、実際に災害が起きた際には、社会福祉協議会がボランティアの受け入れ窓口になったりするが、役場職員はどのようなことをやるのか役割は決まっているのか。
事 務 局：担当は危機対策課にはなるが、災害対策を進めていった中で地域防災計画を策定しており、役場内の各部署で避難所の設営や物資の取り回しなど災害対策の対応について役割が決まっています。初動で一番人手が必要なのは、地域住民の健康観察と罹災証明書等の発行業務、災害対策本部での情報管理となっており、その後段階ごとに必要な業務が変わってきます。詳しい内容については、計画に記載があるので、よろしければ後ほどご覧ください。
委 員：防災拠点として早急に新庁舎が必要であるということで検討を始めて、建設を10年延ばして、5年後に対策ができなかったら失敗に終わるし、一方で、案④を見た時に、大学の移転を受けて経済的に打撃を受けることが予想される中、新庁舎を建てるニュースがでると、当別は意外と余裕なんじゃないかと思われることと、まちづくりの方向性を決めないまま庁舎建設を決定した場合、役場は自分達のことしか考えていないと町民に捉えられる可能性がある

る。そういう印象と防災のバランスをとるのが難しい話ではあると思う。新庁舎の位置づけをまちづくりの拠点にするのか、防災の拠点にするのかは重要な視点になると思う。大学移転のニュースを受けてから、新庁舎の位置づけとまちづくりの関係性について、歩調を合わせるだとか何か進展はあったか。

事務局：大学が移転するからという理由だけではなく、これまでの検討委員会の中でも、事業規模などは見直していこうという議論はしてきていたと思います。その中で今回このようなまちの状況になったので、前回の委員会の中で委員の皆様からもタイミングをずらしたほうが良いのではないかという意見をいただいたので、今回の案を提示しています。また、現庁舎についても防災対応は不十分であるということではなく、あくまで拠点として新庁舎を検討しています。

委員：耐震補強をして10年間伸ばして、時期が来たら次の段階を考えるというのは、例えば2年後くらいに町の方針が出たとしたら、その時に耐震補強と並行して新庁舎の議論を行うといった認識で合っているか。

事務局：その認識で合っています。耐震補強をしても、建設時期を後ろにずらすだけで、最終的には新築建替えの方向性で進めていきたいと考えている。

委員：事務局の説明と町民目線から判断して、案④が妥当と考える。

委員長：次の委員をお願いします。

委員：今後の情勢やまちづくりの方向性がはっきりしないうちに新庁舎を建てるとするのは難しいのではないかと感じる。検討を早まって見合わないものが出てきても困るし、ゆっくり時間をかけて前向きな検討を進めていくのが良いと思う。また、4つの整備方針案を見比べたとき、メンテナンス費用など長い目で見ると建設費はあまり変わらないように思えるため、新築が良いと思う。

委員：案③に魅力を感じていたが、意外と費用がかかる印象。案④については、建築資材の高騰、人手不足、医療大をめぐる町内の状況の変化により、しばらく延期しようということだと思うが、当別町は2045年には人口が8,000人程に減る予想となっていて、今回の大学移転の件により更に人口減少が早くなれないかが心配。人口減少を防ぐために、補助金など医療費の無償化など何か対策が必要で、若い人々や高齢者に住んでもらい、素敵な町だなと思ってもらうためのまちづくりが必要と感じる。若い人々のために医療施設や教育施設の充実が必要だと思うので、もう一度最初から見直して、新築に図書館を併設し、閉塞感を打破していくのはどうか。札幌創生スクエアにはお弁当をたべたりしてゆっくり過ごすことができる空間がある。当別にもそんな場所があっても魅力的で良いと思う。建設費の高騰という話があったが、恵庭

市の市営住宅は木造4階建てで事業費が26億円程度とのこと。鉄筋よりも安いと思われる木材を使っていくのはどうか。

委員：既存の施設を改修して使いながらも、その間に新しい庁舎の検討をしていくことは大事だと思う。災害が起きた際に、役場が中心となって自衛隊や消防、国交省など様々な組織と協力してやっていく中で、果たして役場庁舎が中心となる必要はあるのか。何かあったときは総合体育館やとうべつ学園も拠点になれると思うし、役場庁舎を防災拠点として位置付けて、そのために何か作らなければならないと、もったいないと感じる。また、10年先も不透明な状況の中、できるだけお金をかけないことや新しい庁舎ができることで人の流れが変わることも大事だと思う。

もし新築と決まった場合、何年後に使えるようになるか見込みはあるか。

事務局：決定してからおおよそ5年ほどかかると思います。

委員：庁舎を検討する際にはどうしても色々な要素が入ってしまい、なるべくシンプルに考えていかないと中々決まりにくい。検討委員会ではどんな機能を持つ庁舎かを決めて、建設時期や補助金、住民サービスなどについては付帯意見とするのが良いと思う。30年、50年先に当別町がどういうまちであるべきかがあった上で、そのために庁舎がどうあるかが本来の検討の順番かと思っていた。まちづくりはまちづくりを議論するふさわしい場所で決め、この検討委員会で決めた内容をもって、適切なプランで庁舎建設を進めてもらいたい。これからの社会情勢は少子高齢化により人口は増えていくことは無く、いかに人口を減らさないようにしていくかを考えていく非常に厳しい状況となっていくが、50年後、100年後の当別町がよかったと思えるまちづくりを考えていただき、住民サービスを重視した庁舎を建設していただきたいと思う。

委員長：私も新築に越したことはないと思っているが、いまの情勢を考えると人口減少や建設費の高騰などもあってなかなか難しいと思う。とりあえず、現庁舎が災害にあって崩れるようであれば本末転倒なので、耐震補強をしながら様子を見て、人口減少度合いなどを考えながら、それに見合った新築を考えていったほうが良いかなという気もしています。ちなみに先ほど木材のほうが安いという話がありましたが、事務局どうでしょうか。

事務局：鉄筋コンクリートだとか木造づくりだとか色々な構造がありますが、先日とある建設会社に確認したところ、鉄骨も木材も鉄筋コンクリートも最近はあまり変わらないとのことでした。とはいえ、事業費の検討をするにあたっては、構造の検討もあわせてしていきたいと思っています。

委員長：ほかに皆様方からありますか。

委員：まちづくりの方針が2、3年後に出来るとなった場合、耐震工事は行わずにまちづくりの方針ができるのを待って、新築の検討に入る可能性もあるのか。

事務局：このまま検討するにしろ、検討に時間がかかることと現庁舎の耐震性の不安が払拭されない状況になるので、いずれにしろ耐震補強が必要になってくるかなと思っています。その上で次どうするかという検討になると思っています。

委員：委員の皆さんの意見を聞いていたら案①がベストだけどという意見が多かったので、1、2年なら時期をずらしてそのまま新築も可能なのかと思っただけの質問でした。まちづくりに関して皆さんの意見と相違はないが、基本的に人口減少は止められないし、どんな住民サービスをしたとしても、結局は他の市町村から奪ってくるみたいな感じになる。個人的には、20年後にどういう当別を目指していくのかのまちづくりをしていくベースが1、2年で出来ると思っている。例えば教育をベースとしたまちづくりをしていこうとなった際に、庁舎として何が必要なのか。象徴するとするものが部署として必要なのか。もしくは交流場所なのか。デジタル図書館のような学びができる場所なのか。それらが枝葉になることで庁舎が軸やシンボルになる。まちづくりを1、2年ぐらいでしっかりと決めて、その中の庁舎の位置づけが、先ほどの付帯的などころの判断基準につながると思う。町民や役場内のコンセンサスは必要だが、むしろ1、2年以内にやってしまっただけで、今の意見なら新築の方に持って行って、それをシンボルとしようかという方が、住民のお金を使って何かをする時にはいいのかなというふうに思うのが1つ。もう1つ、次回が事業手法の検討だが、新たなまちづくりのうちの1つが庁舎と考えた時に、現在、町は財政的に余裕があるわけではないので、コンセプトが決まっていれば、先ほど例に出た札幌創生スクエアの中に札幌市が交流センターとして入っているように、民間などと一緒に建てる検討もできると感じる。あと、新築費用の36億を庁舎にすべて使うのではなくて、例えば他と一緒に共同して建てるのか、他のまちづくりの事業にこの財源を充てていくから、庁舎に関してはリース手法を用いていくという選択もできるのかなど。他の20億ぐらいに関しては、例えば住民サービスである教育にしっかりとお金を使って行って、そのコンセプトを町外にもしっかりと発信することによって、それに共鳴した人が移住してくてくれるとか。そんなお金の使い方や事業手法に関しても、このまちづくりってという部分のベースができあがると、かなり判断しやすくなると思う。

委員長：今日は今後の整備方針について説明があり、いろいろな意見も出ましたけれども、事務局から追加で説明があるということ。

事務局：考え方としては、われわれが今資料でお示ししている考え方とみなさん同じかなと思っています。最終的に庁舎建設に向かっていくためには、時間が必要だろうという部分とまちづくりの考え方を整理するというのが今かな

と。その後に庁舎としてのあり方を整理する時間が必要だと思っていますので、その間、既存の庁舎をこのままにしておくわけにはいかないので、耐震補強の考え方が必要だと思います。委員会の中で、新築に向けた考え方をこれまで議論してきたが、それは当然無くなるわけではなくて、新築にむけた意見として、委員会報告書を取りまとめていきたいと考えています。そういったこともあり、追加で資料を配らせていただいて、今年度議論していただいた整備方針の内容について、次回以降で整理していきたいと思っていますので、内容を皆さんと確認していきたいと思っています。

(事務局より追加資料説明)

委員長：事務局より、追加資料の説明がありましたが、みなさん承認していただければ、取りまとめを進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員：この内容で承認した場合、次回の検討スケジュールも変わるのか。

事務局：事業手法については整理の仕方が変わってくると思いますが、既存施設の耐震化や活用についてはまとめていく方向で考えています。

委員長：みなさん承認ということで、進めさせていただきます。

本日は整備方針についての議論となりました。今年度は主に既存施設の利活用について議論してきました。次回以降の委員会でその内容について整理をして、令和5年度の委員会の意見として、とりまとめていきたいと思っています。

まちの状況や社会情勢が大きく変化している状況での判断になっていくため、庁舎の議論も慎重になっていくと思います。引き続き、委員皆様のご協力をいただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

・その他

事務局より、次回の委員会は年明けに開催する旨連絡した。

以上